

家畜市場 価格の推移 (7月)

▼子牛価格(三次家畜市場)

(単位:円・頭・kg・%)

種類	入場頭数	成立頭数	取引率	最高価格	最低価格	平均価格	体重
スモール	雌	4	4	100.0%	93,900	21,600	61,020
	雄	111	110	99.1%	203,040	4,320	157,203
計	115	114	99.1%	203,040	4,320	153,858	62
F1	雌	159	152	95.6%	372,600	84,240	291,077
	雄	147	140	95.2%	455,760	108,000	331,883
計	306	292	95.4%	455,760	84,240	310,680	65
ホルス(5才) 雌	17	17	100.0%	436,320	108,000	262,758	777

▼搾乳素牛価格(北海道)

(単位:円・頭)

市場	開催日	出場頭数	成立頭数	成立率	最高価格	最低価格	平均価格
南北海道	6日	68	64	94.1%	1,305,720	540,000	891,354
釧路	11日	183	151	82.5%	1,172,880	597,240	926,948
根室	12日	410	349	85.1%	1,238,760	483,840	926,061
十勝	18日	790	708	89.6%	1,655,640	441,720	961,662
北見	19日	369	293	79.4%	1,148,040	538,920	876,713
豊富	20日	219	163	74.4%	1,139,400	439,560	898,427
合計		2,039	1,728	84.7%	1,655,640	439,560	913,527

業務報告 (7月分)

- 2日 全酪連ブロック別・組合長会議
- 2日 庄原市酪農連絡協議会研修会
- 3日 行政等への業務報告書提出
- 3日 双楽会視察研修旅行(四日迄)
- 6日 甲奴郡酪・神石地域合同畜魂祭
- 6日 小用酪農協業組合総会
- 9日 第五回理事会
- 10日 山陽乳業(株)豪雨災害救援物資対応
- 10日 芸北酪農部会総会
- 10日 中国B & W決算報告会
- 12日 中国生乳販運理事會
- 12日 西部ミルク会研修会
- 12日 三原市酪農振興会総会
- 12日 東部管内任意組織代表者会議
- 13日 世羅郡酪農振興協議会総会
- 13日 山陽乳業(株)緊急復興会議
- 17日 庄原市酪農連絡協議会総会
- 18日 全国酪農青年女性会議全国発表大会(二十日迄)
- 19日 酪農ヘルパー調整会議
- 20日 食中毒食品衛生講習会
- 20日 JA合併推進委員会
- 21日 飼料用稲作付法人研修会
- 21日 中国生乳販運通常総会
- 21日 福山地方酪農協議会総会
- 21日 西部地域組合員連絡協議会役員会
- 21日 全酪連通常総会
- 27日 広島牧場ガレージセール
- 27日 中国生乳販運会員実務責任者会議
- 30日 溝上牧場ガレージセール
- 酪農共済推進(八月一日迄)

編集後記



七月七日西日本豪雨から一カ月が過ぎ、本誌発刊日の二十五日は丁度発生から四十九日を迎えます。

この豪雨は、多くの尊い命と、財産を奪い去る中で、ボランティア受入等の支援による日々は未だ続き、完全復旧には今後数年間が必要な状況にあります。

改めまして、被害に遭われた各位に対して、手を合わせて衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

広酪が組合員各位の浄財をもって支え、今や関連会社の位置づけにある山陽乳業(株)も西日本豪雨の影響に晒され、工場建屋が約一・五〜一・八割浸水しました。

広酪では、直ちに物心両面からの支援にあたることは、本誌先月号の巻頭記事にて紹介したとおりであります。

まさに、この惨事たるや凄まじく、復興への道程は極めて厳しく思えた中で、同社社長は、七月九日同社常務を本部長とする「災害復旧対策本部」を立ち上げるとともに、七月九日全社員を前にして「今後二週間の完全復旧」を目標に掲げて全面点検と清掃等の指示が行われたと聞きました。

この目標期限を柱に社員並びに業務委託として関わる社員の皆さんは、一丸となつて対応にあたられたものの、様々な障壁からこの目標期限での復旧・復興は叶わず、未だにこの見通しが立たない状況にあります。

年間平準をみて、同社の日商は約二千万円、月商六億円を目標計画とする中で、前述四十九日間の営業逸失収入は約九・八億円に達しますが、この間、人件費、固定費などの経費負担は続きます。

一方で、浸水被害にあった棚卸資産の損失計上や機械装置の修理、又は新規調達に伴うところの固定資産処分損の計上も想定されます。

この緊急事態にあつて、平成三十年度の単年度は自然災害とは云え、大きな欠損金が生じることが想定され、このことは、広酪の経営上、引当措置を講ずる必要性も想定され、とても他人事として放置できない本質を有しております。

広酪は、同社の株主であつて株式総数の三十五・八%を保持し筆頭株主としての責

市町別生乳受託量の進捗状況(7月)

(単位:トン)

市町名	生乳生産量	生産占有率	前年比(同月)	30年度累計	前年比(累計)
庄原市	839.9	22.5%	94.6%	3,443.3	94.3%
世羅町	612.0	16.4%	100.4%	2,432.8	101.3%
三次市	607.3	16.3%	92.9%	2,573.8	92.2%
北広島町	479.1	12.8%	99.9%	1,934.3	100.2%
安芸高田市	325.3	8.7%	85.6%	1,320.4	82.9%
東広島市	315.5	8.4%	97.7%	1,344.0	136.8%
府中市	214.2	5.7%	101.0%	866.3	99.1%
福山市	114.9	3.1%	87.7%	501.7	91.2%
三原市	81.9	2.2%	103.0%	322.9	99.8%
広島市	79.1	2.1%	97.0%	324.0	99.6%
呉市	46.0	1.2%	80.3%	205.0	95.1%
神石高原町	21.8	0.6%	99.4%	89.5	80.7%
合計	3,736.9	100.0%	95.4%	15,357.9	95.6%

※公共機関からの生乳受託数量は除く。

プール乳価(7月分)

プール乳価	110.9431円
前月分プール乳価	111.7625円
前月対比	99.3%

生乳生産量など前年同期比較(7月分)

前年対比区分	戸数	構成比	増産乳量(kg)
生乳生産量が100%以上に達した組合員戸数	53戸	42.1%	178,138.0
生乳生産量が100%未満となった組合員戸数	73戸	57.9%	-303,599.8
合計	126戸	100.0%	-125,461.8

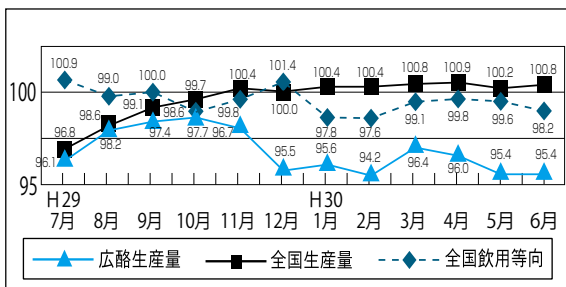
注)この比較は、平成30年7月の生乳出荷のあった組合員を基準に示しています。(廃業組合員は含まない)

生乳受託実績(7月)

地域	備北	南部	西部	東部	合計
生乳出荷組合員戸数(戸)	39	11	38	38	126
生乳出荷量(トン)	1,283.8	361.6	883.5	1,208.1	3,736.9
前年同月対比(%)	93.0%	95.0%	93.9%	99.5%	95.4%
前月対比(%)	97.1%	93.8%	101.7%	101.0%	99.0%
生乳出荷累計(トン)	5,354.2	1,549.0	3,578.6	4,876.1	15,357.9
広酪構成比(%)	34.9%	10.1%	23.3%	31.7%	100.0%

※公共機関からの生乳受託数量は除く。

生乳需給の前年比推移(6月) (単位:%)



市町別の生乳出荷組合員

による購買品利用高の状況(6月)

No	市町名	購買品利用高(千円)	生乳出荷量(トン)	購買品利用占有率	生乳1kg当たりの購買品利用高(円)
1	庄原市	45,816	847	30.2%	54.09円
2	三次市	36,746	637	24.2%	57.69円
3	安芸高田市	17,599	319	11.6%	55.17円
4	府中市	15,004	215	9.9%	69.79円
5	北広島町	11,491	470	7.6%	24.45円
6	福山市	6,933	122	4.6%	56.83円
7	世羅町	6,632	595	4.4%	11.15円
8	東広島市	4,890	332	3.2%	14.73円
9	三原市	3,757	81	2.5%	46.38円
10	神石高原町	1,437	22	0.9%	65.32円
11	広島市	937	80	0.6%	11.71円
12	呉市	331	53	0.2%	6.25円
合計		151,573	3,774	100.0%	40.16円

任から、営業の全面回復の時期や被害額全容とともに、行政が緊急措置した復興事業を把握し、その上で、同社に対しては、復興・復旧ビジョンを早急に策定し、しかるべき時期に取締役会又は臨時株主総会などを通じた組織判断を求めて行動にあたることは極めて重要では無いかとする株主責任からの示唆を同社に発信するも、この対応にあつたのスピード感に乏しいものでありました。

何れにしても、同社の復旧・復興にあつては、億単位以上の多額の金員を伴うことは十分想定され、これを補完する一役は株主に及ぶこととなります。

強いては、広酪の場合、組合員から払い込まれる出資金の価値に触れるものとなりませんが故に、取締役会又は株主総会で復興計画(ビジョン)等の議案付議が行われるべきと考えます。

この上で、株主等関係者は経営回復の実現性を見据えて、真なる復興見通しの可能性への賢明なる審議と判断が行われるべきではないでしょうか。

今回の同社の豪雨災害から平成三十年度の収支は逆ざやとなり、累積欠損を招くことになるかも知れません。広酪は、同社の平成時代前半期において、不慮の事態から累積欠損のトンネルに入りました。

同社再建には同社は農協プラントであり、しかも、酪農家の生産する生乳需給を司る重要な会社である位置づけにおいての総合的な判断から数回に亘り増資を繰り返して支援にあたり、結局、二十数年を費やして平成二十六年七月に配当金が出来る状態になりました。

しかし、今回の豪雨災害から今後の真なる復興再建には、再度二十年以上を費やすことも頭をよぎる中、出資母体として酪農家が減少する今日の課題において、今後の同社復興のビジョンには乳業再編などのよりよい発展性を踏まえた慎重な対応も一考されるべきと考えますが如何でしょうか。

組合員のお一人お一人は、出資や生乳出荷を通じて山陽乳業(株)とはより密接な関係にあります。あなたはどうか考えられますか。コメントをお寄せ下さい。

(A・N)